

F2-13

千葉県香取市佐原における「まちなか観光地」の観光行動に関する研究
 ーアクセス方法と滞在形態の差異に着目してー

A Study on Tourist Behavior in Town Tourist Destination of Sawara, Katori City, Chiba
 - Focusing on differences in access methods and forms of stay -

○白石将也¹, 落合正行², 落合はる菜³

*Masaya Shiraiishi¹, Masayuki Ochiai², Haruna Ochiai³

Abstract: The purpose of this paper study is to clarify tourist behavior in town tourist destinations by focusing on differences in access methods and forms of stay. As a result, it clarified four types of characteristics based on range of action.

1. 研究背景と目的 ; わが国では, 新型コロナウイルス流行を契機にマイクロツーリズムという概念が広がり, 近距離から自家用車で観光地に直接アクセスし, 日帰り観光を楽しむ旅行者が増加している. これにより観光地周縁部への回遊性が乏しくなる他, 観光地中心部においても行動範囲の狭小化や滞在時間の短縮化が懸念される. これに対して, 特に「まちなか観光地」では城下町や宿場町等の歴史的資源を宿泊施設にリノベーションし, 滞在性向上を図る取り組みが行われており¹⁾, 本研究対象地である千葉県香取市佐原も同様である.

そこで本研究では, 千葉県香取市佐原を対象に, 観

光地へのアクセス方法とそこでの滞在形態の差異に着目し, 「まちなか観光地」における観光行動の特徴を明らかにするとともに, 今後の改善策や課題についても論じることを目的とする.

2. 研究方法 ; 以上より, 表1に示す調査を行った.

3. 結果および考察 ; 表1の調査の結果, 抽出した4つの観光者タイプの行動範囲を分類したものが図3であり, 観光者タイプごとにアクセス方法と滞在形態の特徴をまとめたものが図4である. 以降はこれらをもとに考察する.

(1) 行動範囲からみる観光行動の特徴 ; 図3より, 小野川周辺を含む中心部を観光する A, B パターンでは 100%, 81% と i 型観光者の割合が高く, 駅から小野川までの周縁部を観光する C, D パターンでは 83%, 43% と ii 型観光者の割合が相対的に高いことがわかる. どちらも日帰り観光者であり (図2), 行動範囲が A から D パターンに広がるにつれて平均滞在時間⁽¹⁾ が長くなることも読み取れる. つまり, 行動範囲が狭い A, B パターンに多い i 型観光者は滞在時間が短く, 行動範囲が広い C, D パターンに多い ii 型観光者は滞在時間が長くなる実態が捉えられた. このことから, 行動範囲が狭小するとともに滞在時間が短縮するという, 観光地中心部にアクセスし日帰り観光を行う i 型観光者の観光行動の特徴が明らかになった.

(2) アクセス方法と滞在形態からみる観光行動の特徴 ; 次に, ii ~ iv 型観光者の観光行動の特徴を明らかにするため, 観光地周縁部にアクセスし観光する観光者と宿泊を伴う観光者の, アクセス方法と滞在形態ごとに考察する.

1) 周縁部にアクセスし観光する ii・iv 型観光者 ; 図4aより, ii・iv 型観光者は公共交通機関で周縁部にアクセスし観光する観光形態ゆえに, 佐原駅前のロータリーでのバス・タクシーの利用が一定数みられ, ii

表1 調査概要

① 調査場所及び調査対象の選定	
調査対象	千葉県香取市佐原へ訪れた観光者
調査期間	2025年6月2日(月)～6月29日(日)
調査内容	①で示した4つの観光者タイプの観光行動の特徴を把握するため, 佐原駅前・街並み観光駐車場・ホテルルートイン・ホテルNIPPONIAの計4箇所で, 観光者の属性や交通手段, 行動範囲, 印象的な観光名所等, 延べ112組の観光者にアンケート調査を実施.
② 観光行動の特徴把握	
調査対象	千葉県香取市佐原へ訪れた観光者
調査期間	2025年6月2日(月)～6月29日(日)
調査内容	①で示した4つの観光者タイプの観光行動の特徴を把握するため, 佐原駅前・街並み観光駐車場・ホテルルートイン・ホテルNIPPONIAの計4箇所で, 観光者の属性や交通手段, 行動範囲, 印象的な観光名所等, 延べ112組の観光者にアンケート調査を実施.
③ 観光行動の特徴整理	
調査対象	②で把握できた112組の観光者
調査期間	2025年6月30日(月)～9月9日(火)
調査内容	上述のアンケート調査から得られた結果を整理し, 単純集計およびクロス集計により統計分析を実施.

図1 中心部・周縁部の範囲 [筆者作成] 図2 観光者の分類 [筆者作成]

1 : 日大理工・学部・まち 2 : 日大理工・教員・まち 3 : 日大理工・院 (前)・まち

型では48%, iv型では32%である。一方, 中心部にアクセスし観光するi・iii型観光者はi型が2%, iii型が0%とバス・タクシーの利用は著しく少ないことがわかる。また佐原での印象上位5項目では, ii・iv型観光者は「あやめ」や「香取神社」等の小野川周辺以外が顕著であるのに対し, i・iii型観光者は全て小野川周辺のみであることもわかった。このことから, 周縁部にアクセスし観光するii・iv型観光者は, 中心部にアクセスし観光するi・iii型観光者に比べ, 公共交通機関を用いる割合が高く, より広域の観光行動を取るといえる。

2) 宿泊を伴うiii・iv型観光者; 図4bより, 宿泊を伴う観光者は中央商店街通りを観光するB, Dパターンの合計が, iii型観光者では100%, iv型観光者では86%と日帰り観光者に比べ顕著に高いことがわかる。このことから宿泊を伴う観光者の多くが中央商店街通りを観光していることが読み取れる。また駅から中心部にかけて続く道路沿いにある周縁部の店舗に立ち寄る人の割合は, iii型観光者が31%, iv型観光者が56%であることがわかる。この道路は旧香取街道であり,

街道沿いには和菓子店やうなぎ専門店等の老舗飲食店が集まっていることが現地調査から捉えられた。つまり, 宿泊を伴う観光者は日帰り観光者に比べ, 高い割合で周縁部の飲食店に立ち寄っていることがわかる。これらのことから, 宿泊を伴う観光者は長時間にわたり観光地に滞在し複数回まちに出て観光を行うため, 日帰り観光者に比べより広範囲に観光を行っていると考えられる。

4. まとめ; 以上を踏まえ, 千葉県香取市佐原における「まちなか観光地」の観光行動の改善に向けては, 今後も歴史的資源を活用しつつ宿泊観光者を増やすことで, 観光地中心部の行動範囲ならびに滞在時間が拡大するとともに, 公共交通機関の利用を促進することで, 観光地周縁部への回遊性が向上すると考える。一方, 昨今の公共交通サービスの縮小化を鑑みると, 情報通信技術を活用した次世代の移動サービス(MaaS)の導入が期待される。

補注: (1) アンケート調査より, 日帰り観光者の平均滞在時間はA: 2.83時間, B: 3.07時間, C: 3.44時間, D: 3.93時間である。

参考文献: (1) 落合はる菜・落合正行: 「まちなか観光地における観光施設計画に関する研究—歴史的資源を活用した観光まちづくり事例を対象として—」, 日本建築学会地域施設計画研究シンポジウム発表論文集, vol.43, pp.415-422, 2025.7

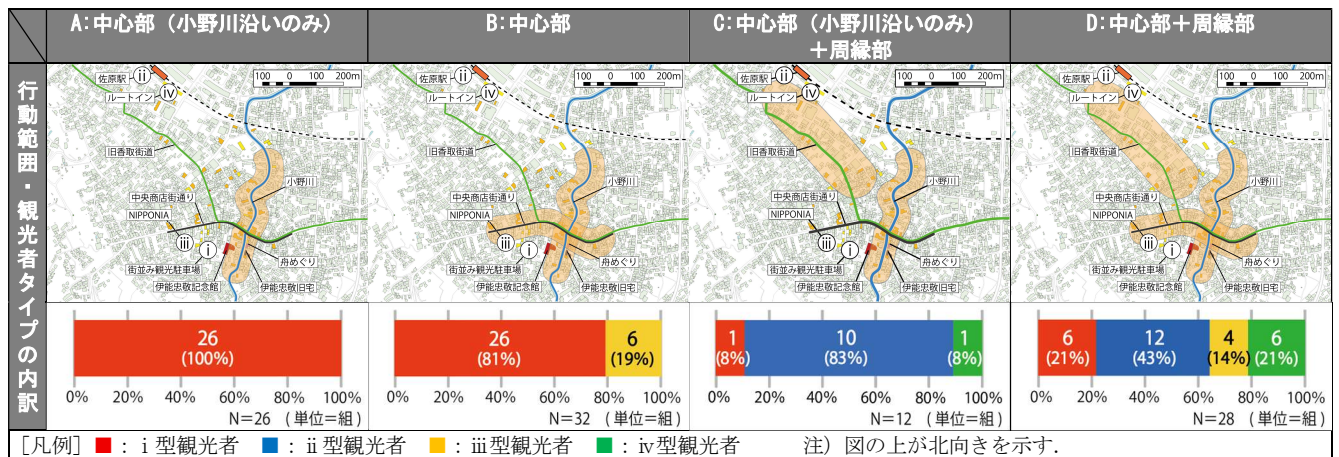


図3 行動範囲ごとの観光者タイプの内訳 [筆者作成]

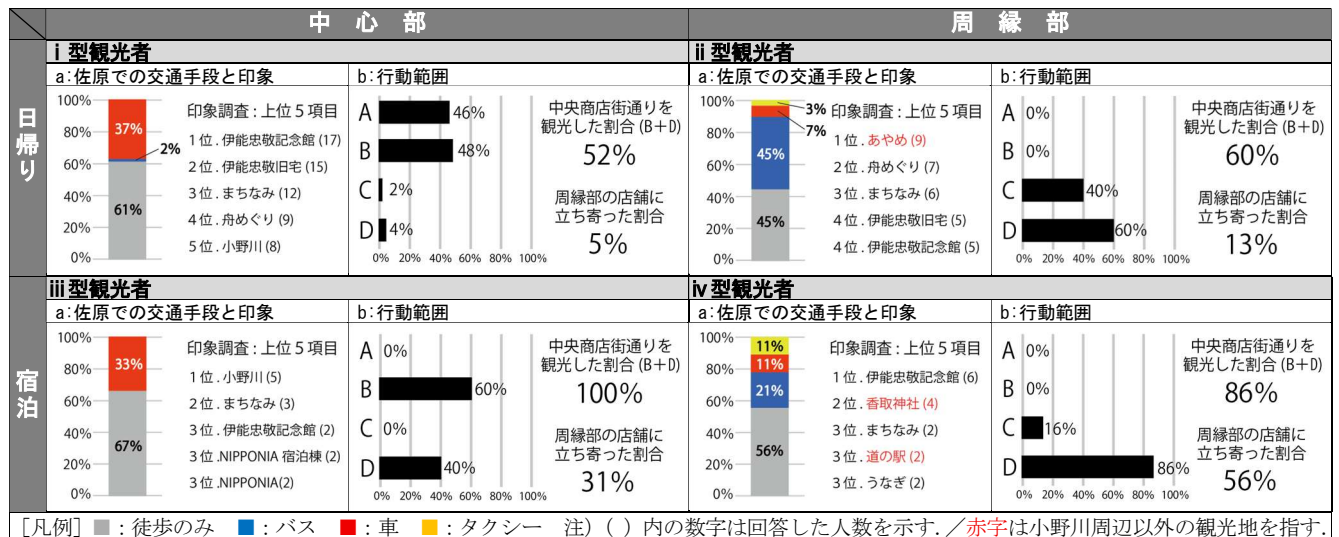


図4 アクセス方法と滞在形態からみる観光者タイプごとの特徴 [筆者作成]